

神を愛する生活

ヨハネの手紙Ⅰ二章12～29節

世も世にあるものも、愛してはなりません。世を愛する人がいれば、御父の愛はその人の内にありません。すべて世にあるもの、……父から出たものではなく、世から出たものです。(15、16)

著者ヨハネは、神の救いにあずかった者がこの世にあつてどう生きるべきかを語ります。第一のこととして、「世も世にあるものも、愛してはなりません」と述べます。キリスト者の生活は、「心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」(マタイニニ37)という教えが中心です。御子を与えるほどに私たちを愛してくださった神を心から愛して生きることです。世を愛するということは、神に対して向けられるべき愛を他のものに向けることです。世と世にあるものを愛するとは、神以外のものを心の王座にすえ、それらを神のように慕うことです。ここで、私たちが何を人生の拠り所にして生きていくのが問われています。私たちは神の愛を全ての土台として、その神の愛と恵みに応えていく人生を歩んでいきたいと心から願います。